

27年7月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 7月1日～ 27年7月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		27/7月	8月	9月
入荷動向	スギ	△ 75.0	△ 66.7	△ 33.3
	ヒノキ	△ 100.0	△ 50.0	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 33.3	0.0
	トドマツ	△ 33.3	△ 33.3	0.0
消費動向	スギ	△ 75.0	△ 66.7	△ 33.3
	ヒノキ	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 33.3	0.0
	トドマツ	66.7	0.0	33.3
在庫動向	スギ	△ 50.0	△ 33.3	0.0
	ヒノキ	△ 100.0	△ 100.0	△ 50.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 33.3	0.0
	トドマツ	△ 50.0	0.0	△ 33.3

・スギ原木の入荷は3ヵ月連続して減少。ヒノキ、カラマツ及びトドマツの入荷は7月及び8月の減少が、9月は横ばい。

・スギ原木の消費は3ヵ月連続して減少。ヒノキ及びカラマツは7月及び8月の減少が、9月は横ばい。トドマツは7月の増加が、8月は横ばい、9月は再び増加。

・スギ及びカラマツ原木の在庫は7月及び8月の減少が、9月は横ばい。ヒノキは3ヵ月連続して減少。トドマツは7月の減少が、8月は横ばい、9月は再び減少。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/7月	8月	9月
スギ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	25.0	33.3	33.3
米マツ	33.3	0.0	33.3
北洋カラマツ	0.0	0.0	0.0
その他	100.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキ原木価格は3ヵ月連続して横ばい。カラマツは強含みで推移。

・米マツは7月の強含みが、8月は横ばい、9月は再び強含み。北洋カラマツは3ヵ月連続して横ばい。その他は7月の強含みが8月及び9月は横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・減産強化及び原木工場状況により消費分しか入荷出来ない。原木消費は減少。在庫は変動なし。
・生産調整で入荷減、消費減、在庫は減（製品価格の底値感が出て、来先の買いが増えて来ているのと生産が減るため）。
・生産調整により入荷若干抑える。減産率は増。
・スギ、ヒノキの在庫が溜まった。適正な在庫まで丸太の入荷は調整する。減産中のため当分の間、横ばいの消費が続く。入荷調整中。

(原木価格)

・国産材は基本的に価格変動させず、安定供給、安定価格での取引を継続する方針。米マツ及び北洋カラマツは弱含み横ばいで推移と考える。
・スギ、カラマツほぼ横ばい。
・市況が悪すぎる。当分安値での横ばいが続く。
・カラマツは、まだ取り合い。

27年7月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		27/7月	8月	9月
生産動向	構造用(9mm)	△ 60.0	△ 40.0	25.0
	〃 (12mm)	△ 60.0	△ 40.0	25.0
	〃 (15mm)	△ 60.0	△ 40.0	25.0
	〃 (24mm)	△ 60.0	△ 40.0	25.0
	〃 (28mm)	△ 60.0	△ 50.0	25.0
出荷動向	構造用(9mm)	40.0	25.0	50.0
	〃 (12mm)	40.0	25.0	50.0
	〃 (15mm)	20.0	25.0	50.0
	〃 (24mm)	20.0	25.0	50.0
	〃 (28mm)	△ 20.0	25.0	50.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 80.0	△ 50.0	△ 33.3
	〃 (12mm)	△ 80.0	△ 50.0	△ 25.0
	〃 (15mm)	△ 80.0	△ 50.0	△ 25.0
	〃 (24mm)	△ 75.0	△ 50.0	△ 25.0
	〃 (28mm)	△ 75.0	△ 50.0	△ 25.0

- ・合板の生産は全品目で7月及び8月は減少、9月は増加。
- ・合板の出荷は9mm、12mm、15mm及び24mm3ヵ月連続して増加。28mmは7月の減少が、8月及び9月は増加。
- ・合板の在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/7月	8月	9月
構造用(9mm)	20.0	40.0	50.0
〃 (12mm)	20.0	40.0	50.0
〃 (15mm)	20.0	40.0	50.0
〃 (24mm)	20.0	40.0	50.0
〃 (28mm)	20.0	40.0	50.0

- ・合板の出荷価格は全品目で強含み。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

- ・底値感と操短で荷動き活発。在庫不足気味。
- ・構造用合板は減産、住宅着工数が多少増加しているので出荷には期待、在庫は減産強化で今月は減少。
- ・7月から当分は減産、9mm、12mmは出荷増、15mm、24mm、28mmは横ばい、9～12mmはルートの買いが入ってきている。15～24mmはプレカット工場中心の出荷になるが仕事は増えてない。全品目生産調整で在庫減。特に12mmはかなり減る。
- ・荷動きなく生産調整で在庫増を抑える。梅雨明け後、多少工事が止まっていた分が出てくるのではと予想。需要が多少出てくるのではとの予想で在庫は微減する。
- ・7月減産、8月自然減。住宅関連忙しさ見えてきた。出荷は月を追うごとに増加。生産減、出荷増で欠品アイテムも出て納期に時間がかかる可能性あり。

(合板価格)

- ・在庫の増減で価格変動があると考える。
- ・国産針葉樹メーカーが生産調整することで全品目値上げとなってきた。
- ・需要が出てくると予想され、価格の上昇を期待。
- ・コスト割れのため値戻し。